

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261

Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel.+86-871-63311468 Fax.+86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第73号

発行日 2020年(令和2年)9月15日

会報

「25の小さな夢基金」第12期生卒業式 89名がそれぞれの道へ歩みだしました

新型コロナ危機を乗り越えて 日本より初めてのリモート参列!



▲在学最後の集合写真 晴れやかな笑顔で

7月28日に雲南少数民族女子高生を支援する協会プロジェクト「25の小さな夢基金」で支援した89名の春蕾生が卒業を迎えました。しかし、そこに厳しい三年間を支えた会員や里親サポーターの皆様はあきらめませんでした。例年では彼女たちの門出を祝うために日本より関係者が駆け付けますが、今年は新型コロナウイルスのために雲南へ行くことが叶いませんでした。しかし協会では初の試みとしてWEB会議アプリを使用して、卒業式会場と東京本部、そして会員の皆さまをつなぎPCの画面越しに卒業式に参列し、それぞれメッセージを送りました。また会場では里親サポーターの皆様から寄

▼将来への期待を胸に喜ぶ卒業生



せられた最後の支援金を手渡しでお渡ししました。



▲前日に昆明事務所で準備するボランティア



▲里親サポーターからの支援金を整理する昆明のボランティア。お手紙は後日学校より手渡しました。

今回の卒業式では、三つの感動的な場面にも強く印象付けられました。一番目は先生

方が卒業生たちへそれぞれが祝辞を送り、生徒たちから先生方へ花束を捧げて感謝するシーンです。先生方と卒業生たちの間に深い心の絆を感じ



ネット中継



▲画面越しに日本の本部が映ると大歓声が



▲担任の先生の贈る言葉に涙が



▲ネットを通じて映る卒業式の様子



じました。

二番目は卒業生全員が「感謝の心」を合唱し、別れを惜しむシーンです。卒業生たちの優美な歌声と惜別の抱擁をする時の真摯な友情の姿に心を打たれました。

そして三番目は7名の卒業生にインタビューを行った時です。卒業生たちは里親サポーターに対する感謝の気持ちを真摯に語っていました。故郷を離れて昆明市女子中学に来て新たな人生をスタートさせた旅であること、いつも故郷にいる家族に対する思いと、大きな夢を胸に積極的に情熱を持って前向きに未来に向かって進んでいく決心など卒業生たちの気持ちを知り、とても深く感動



▲里親サポーターの新田様から生徒たちへお祝いのメッセージが送られました

しました。また雲南省の貧困少数民族地域に住む子どもたちのために「教育支援活動」を行う事の大切さを痛感しました。皆様とともに、「教育支援活動」を永遠に行い続けて行き、より多くの子どもの成長を見守り支えていきたいと思っております。最後に春蕾班12期生卒業生の皆さんへは里親サポーターの皆様から頂いた愛と優しさをこの先いろいろな人へ伝え続けることを願っています。

今回のオンライン卒業式を行うにあたり、協会法人会員の新世界教育グループの現地法人である桜花国際語昆明中心の蘇禹誠副校長をはじめ、ボランティアの皆さまには前日の準備から大変にお世話になりましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

卒業式リモート参列者(順不同、敬称略) 江間繁博、鈴木慶一、新田真弓、葛海瑛、吳淑敏、宋愛平、丁勇軍、芦名雪希、郭丹(新華社通信)、名取黎、名取皓、胡小平、上原尚斗、許峰顧問、初鹿野恵蘭理事長、佐伯義博監事

現地で協力者(順不同、敬称略) 昆明市女子中学、新世界教育グループ-桜花国際語昆明中心、蘇禹誠、丁美蘭、胡安静、李青、林娜、王淑蕊、勾応菡、李学倩琳、李小一、林惠、冉晓珊、李進、王鳴陽



卒業生インタビュー 卒業式終了後、卒業生数名に高校生活や今後のこと、支援者の皆さんへの思い等をインタビューしました。

徐秋蘭さん (漢族)

支援者: 蘇州弘化基金会様

Q 春蕾3年間の感想は?

A ご支援いただき、高校生活が続けられました。支援していただいた心優しい人々と先生に感謝します。先生は生活と学習についての知識をたくさん教えてくださいました。

Q 高校に入ったばかりの時はどのような気持ちでしたか?

A 勉強が続けられる機会ができて、とても嬉しくて、ワクワクしました。でも少しだけ怖く思いました。それは急に家族から離れて、一人で生活しなければならなかったからです。

Q この3年間に、支援者の方々と交流したことがありますか?

A はい、手紙で交流をしました。そして、毎学期、生活上や学習上の困難と学んだことなどを手紙に書いて、コミュニケーションを取りました。

Q 支援者からは?

A 夢を実現するために努力し、困難に挑むように励ましてくださいました。

Q 卒業後の予定は?

A 卒業後の夏休みは長いので、アルバイトを始めることで、社会経験を積んで、大学に行くための準備もしていきたいと思っております。

Q 大学の専攻は何ですか?

A 教育です。先生からたくさん影響を受けましたから、これからは教師として活躍したいと思います。

Q 大学卒業後はどうしたいですか?

A 利己的な考えかもしれませんが、故郷に戻って、知識は運命を変えることができるので、頑張って勉強しなければならないことを私みたいな子供たちに伝えたいです。

Q 三年間を通して、親に対してどんな気持ちを持っていますか?

A 最初、両親と離れることはとても怖かったです。両親も私を(昆明に)送って帰ろうとした時、泣いてしまいました。その時、とても帰りたくなりました。でも、この三年間を通して、両親が期待しているのは、外向的で、自信を持ち、自立した女性になることだと思ようになりました。

Q 最後に支援者へ一言お願いします。

A 物質的、精神的に支援をいただき、とても感謝していますと、蘇州弘化基金会のおじさまたちとおばさまたちに伝えたいです。振り向けば、後ろには私を支えている人がいることを気づかせて、それは勉強を続ける勇気になりました。お身体が健康で、楽しい毎日でありますように祈っています。

翻訳書き起こし: 陳欣悦(インターン生)

数字で見る協会20年の歴史

25の小さな夢基金プロジェクト・心のお手紙

里親サポーターと生徒がやり取りしたお手紙の数

約320人 約5050通 約980人

里親サポーター → 2008年~2020年累計数 ← 春蕾クラス支援生徒

新型コロナウイルス緊急支援

国境を越え 想いを乗せたマスク支援

この度の新型コロナウイルス肺炎によりお亡くなりになられた方々にご冥福をお祈り申し上げますとともに、感染された皆様および関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い終息を心より祈念申し上げます。

2020年に入り、新型コロナウイルスの流行で世界中が大混乱に陥り多くの人命や生活が危機にさらされました。

しかしこの様な厳しい状況下でも志を高く持った、協会の会員の皆さまをはじめとし、協会と深いかかわりを持った日中双方の企業や団体から多くの励ましの言葉や支援物資を頂き、人とのつながりの強さやどんな状況でも他人を思いやる気持ちを改めて感じる機会となりました。また国を越え、愛を届けるために行動する皆さまに強く感動しております。

この場をお借りして皆さまのご支援・ご協力に心より厚く感謝申し上げます。ありがとうございました

2006年開始の協会プロジェクト「25の小さな夢基金」では、昆明市女子中学春蕾班の少数民族女子生徒たちを支援し、深い友情を育んでまいりました。

新型コロナウイルス感染拡大を心配した春蕾班卒業生および先生方より「困難な時に支援していただいたサポーターの皆様のために何かしたい」とマスク支援がはじまり、その支援の輪は在校生・卒業生・教師含め230名以上になりました。日本から家族のように見守り高校生活を支えていただいたサポーター「爷爷、哥哥、奶奶、姐姐」に向け、感謝の気持ちが込められたメッセージとマスクが続々と協会事務所に届きました。



▲スタッフ皆で発送作業



▲マスクは様々な関係者の元へ届けられました



▲協会と交流のある多摩市立多摩第二小学校へ
初鹿野理事長、大鷲理事らとマスクを届けました

中国の皆様と春蕾班卒業生および先生方から送っていただきましたマスクはマスク不足でお困りだった自治体、病院、法人会員、個人会員、ご協力者などの皆様に贈り、大変、喜ばれました。マスクを通じての新しい日中友好の支援の輪は新華社通信に取り上げられました。

彼女たちからの中国語のメッセージは日本語に翻訳して下さるボランティアを募り、翻訳していただき、ご支援者の皆様にお送りしました。



▲名古屋市教育委員会へ協会名古屋支部を通じてマスクを寄贈しました。



▲都築顧問をはじめ協会役員が埼玉県庁を訪問



ありがとうございました!

春蕾卒業生 231名
日本の皆さんへ

趙玉團、玉応兒旺、盤金珍、馬永蓉、徐張麗仙、張麗、嚴加貴、李翠英、李滿華、李李順英、陸永尖、魯魯才、張孝瓊、田金香、韓化冰、羅紅梅、王澤芬、施超娟、鮮澤葵、陳朝米、和嘉敏、周潤葵、趙艷麗、王克林、武茜茜、李鑑、代玉蓉、倉思艷、山偉瓊、熊蒲朝琴、陶慧、李翠玲、安樹秀、普雲靜、陸海路、依光并、劉順芬、趙海芳、張玉潔、汪金梅、張瑜、楊紫微、張一帆、曹安業、邱洪鈺、韋美婷、李娟、馬曉爽、熊道美、李雨涵、熊思語、熊思敏、林霄穎、李智慧、黎欣雨、李玲、李蒙恩、羅海珍、羅劍河、田和利、李小萱、和重欣、胡文清、黃瑞舒、饒麗梅、喃永罕、陶倩、王果邁、徐金琴、楊胡心新、楊茜、鄧姪、楊微、字麗琴、吳建江橋梅、李璐涵、張麗梅、茶清、馬芳、彭蓉、陳小芳、余彩艷、沙小花、張施施、閉小芳、余珊珊、張雲珊、趙楠、肖冉、趙含露、趙羅永仙、韓清、代傑傑、李常紅、李金蓉、張微、吳紅

新型コロナウイルス緊急支援

皆さまからの声

科啓、時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。このたびは、マスク2,000枚を東京府へ寄贈していただき、誠にありがとうございました。令和2年5月15日付けで確かに受領いたしましたので御報告いたします。いただいたマスクにつきましては、東京府の新型コロナウイルス感染症対策のために活用させていただきます。時節から、御自愛のほどお祈り申し上げます。 敬具
令和2年9月1日
認定NPO法人 日本雲南聯誼協会
初鹿野 恵商 様
東京府福祉保健局長
吉村 高志

認定NPO法人 日本雲南聯誼協会
理事長 初鹿野 恵商様
少し下火になってきたとはいえ、新型コロナウイルスの勢いはまだまだ衰えそうもありません。この度は阿部俊子議員を介してたくさんの方のマスクをご恵賜りありがとうございました。私自身しばらく在宅勤務をしておりましたので、お礼が大変遅くなりましたことをお詫言申し上げます。在宅で療養しておられる方々への訪問看護は簡単に中止できるサービスではなく、訪問看護師たちは自ら感染源にならぬこと、そして訪問先で感染しないことに細心の注意を払っていますが、そのためのマスクは必需品、あちらこちらの訪問看護ステーションからマスク不足の声が聞いております。いただきましたお心のこもったマスクはすぐに現場の訪問看護師たちに届けたいと思っております。パンフレットを拝見して、貴協会が実に素晴らしい活動を続けておられることがわかり、感銘を受けております。マスク寄付活動に参加して下さった夏間さんをはじめ多くの皆様にも心から感謝申し上げます。本来でしたらお目にかかって直接御礼申し上げるべきですが、今の状況ではしばらくは控えなければなりません。また機会を見てお目にかかれたらと願っております。
とりあえず御礼まで
令和2年5月11日
日本訪問看護財団
理事長 清水 瑞子

日本訪問看護財団より

▼埼玉県知事より
謹啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃承蒙の推進に格別御支援・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。このたびは、今般大変貴重なマスクを御寄贈賜りました。埼玉県を代表しまして、心から感謝申し上げます。御寄贈いただきました品は、感染により重症化しやすい高齢者の施設などに確実に配布し、しっかりと活用させていただきます。今、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症については、貴認定NPO法人日本雲南聯誼協会におられること存じます。本県においては、これまでも様々な対策を実施してきたところでありますが、今後も国や関係機関と緊密に連携し取り組んでまいります。皆様におかれましては、引き続き御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。貴認定NPO法人日本雲南聯誼協会のますますの御発展をお祈り申し上げます。略儀ながら書中をもちましてお礼の御挨拶とさせていただきます。
令和2年5月14日
認定NPO法人日本雲南聯誼協会御中
埼玉県知事 大野 元裕

新型コロナウイルス緊急支援

看護で忙しい皆さまへ心を込めて

5月7日当協会が支援している中国雲南省の少女たちから届いた愛のマスク2000枚を公益財団法人訪問看護財団(渋谷区)へお送りしました。今回のマスク支援は、社会で必要とされている医療機関にてご活躍中の皆さまに向けて、活動を行っております。発送に先立ち、5月1日に「25の小さな夢基金」会員であり看護の制度作り熱心に

取り組まれている、あべ俊子衆議院議員にご来訪いただき、初鹿野理事長と会談を行いました。阿部議員は教育支援にも取り組まれており、2016年のふれあいの旅にもご同行いただき中国雲南省を訪れました。今回の訪問では協会の長年の活動や一同の志に対し称賛の言葉を頂きました。



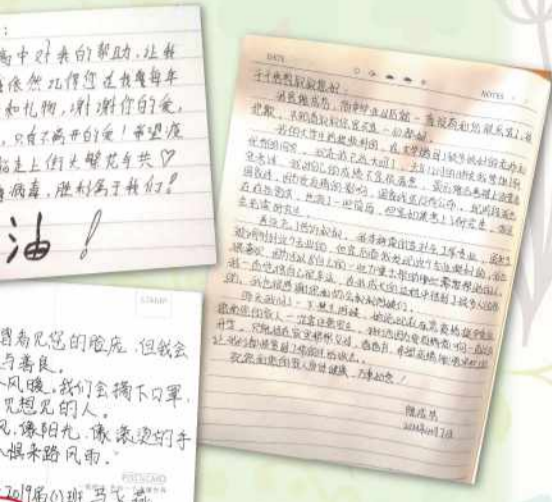
▲左端・あべ俊子衆議院議員

東京本部事務局

新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部スタッフの在宅勤務と時差出勤た、職員、ボランティアは感染予防対策しました。ご不便・ご迷惑をおかけした



日本の皆さまからのマスクが昆明市女子中学に届きました



そして日本のマスク不足を聞いた卒業生から今度は沢山のお便りとマスクが送られて来ました

マスクで恩返し

寛傘、王雲嬌、楊麗晶、李元蘭、李東煥、黃麗仙、衛珍、陶建芳、王花、朱龍妹、董艷超、葉春当、楊旭、麻木三、楊芬、柏雪、何維改、玉翠章、王英、楊順、張曉慧、孫瓊麗、熊成芬、葉騰、李錦華、王家麗、敖丹、高燕、彭必娥、李万美、朱学秀、杜令、馬向玲、龍美、金嵐、楊金熔、刀曉雪、陳紅梅、羅青、李錦雲、富瑤、韓仙花、馬宏艷、娜花、夏雨、暴晶晶、廖順然、龍鑫羽、門木銳、許燕聰、李斯琪、聞楊娟、和菁、趙琴、白遊熙、趙啊葉、楊連舛、唐湖雲、李建花、吳華容、李松燕、張騰月、周小麗、熊艷、李日扎、楊帆、張春蕾、陳虹杉、和宏業、張新、谷道美、黃琴、艷芬、張凡晶、常紹霞、安靜、陳冬梅、戴紅瀟、杜嬋、李艷全、劉美舒、李夢月、李詩帆、梁飛、呂海賢、朝艷、楊倩、趙江惠、王金、玉応香、張旺傑、左翠帆、建芳、矣雲霞、熊怡、盤菲、張宗惠、李馨怡、王霞、李、羅雨鑫、姜蕊、李一帆、和聖芳、馬飛燕、付天雪、趙仁春、王紅雨、王丹丹、胡星、劉靜、王成巧、許燕、曾艷秋、王洪燕、李雲芬、張建芬、李龍丕、白金秋、尹冬麗、余瑞、王夢妃、張舒曼、融天鳳、関珂、

南省) に向けての (同、敬称略)

、関見典、久繼智弘、三木秀隆、羅時珍、宋紅霞、石井敏愛、河野宏和、近藤はる香、初鹿野道子、丁勇軍、杉浦幸夫、大崎功雄、山縣和弘、浅山乙男、蘇鑫、寺内憲一、橋本富雄、中日本経済技術協教育科技有限公司、上原尚斗、許峰顧問、清水雄、支部長、董紅俊日中青少年交流部長、寺内明子、副理事長、初鹿野薫理事、中村有里子理事、青、胡小双、平田栄一

より感謝申し上げます

より

、日本雲南聯誼協会は2月28日から5月7日までを行い、リモートワークで業務を続けました。また徹底した上で、マスク発送作業等の業務を行うこととお詫び申し上げます。

「25の小さな夢基金」卒業生の今 Vol.6 世界はなんと素晴らしいのか



雲南生に入学生したばかりの金井さん

金井さん

2014年入学 第7期生 イ族

せんでした。昆明での三年間は、たくさんの初めてにあふれていました。初めて見た高層ビル、初めて食べた洋食、初めて勉強した音楽と初めて任された責任ある仕事、初めての外国人教師との会話... 昆明での初めては新鮮でした。視野を広げ、もっと知りたいという気持ちもどんどん強くなりました。さらに印象的な初めては、愛情ある日本人と出会い、幸運にも初めて海外に行くチャンスを得たことです。以前、たまたま欧米人と出くわしたことはありましたが、外国人と親しく接するのは初めてでした。また、初めての海外は未成年の私に異国情緒を感じさせてくれました。こんなことが自分の身に起こるなんて思ったこともありませんでした。協会が出国のチャンスを与えてくれたこと、婦人連合会が春蕾生に加えてくれたこと、また女子中学校が理想的な舞台を与えてくれたこと全てに感謝しています。静かに見守ってくれて支援してくれている皆さん、私を愛し、私が愛する皆さんに感謝します！ 数え切れない初めてと日本旅行で多くのことを学びました。視野はもう狭くありませんし、自分は何がしたいかも分かりました。私の見て

いる世界は変わりました。勉強し自分の幅を広げて、もっと遠く、もっと高く、できれば世界中を旅したいと思います。ですから英語を専攻しました。勉強中、色々な困難もあるでしょうが、夢を叶えるために頑張ります。

すべての成果は影から支援してくれる人のおかげであり、私の経験も協会と女子中学と切り離せません。時折、私たちは運命や出自に不満を抱き、自分は不幸だと思いがちですが、そうではありません。欲しいものは努力して手に入れるもので、今の私はラッキーで幸せです。感謝の心を持って夢を追うことを知っているからです。努力すればするほど幸せになれると信じています。

翻訳: 胡安静 (雲南支部インターン生)



協会設立15周年記念事業 小さな夢基金生日本研修で来日 (2015年8月)

少数民族の女子教育支援

「25の小さな夢基金」

2020新入生 新規里親サポーター 募集中

お問い合わせ・お申し込み ↓ 東京本部事務局 TEL 03(5206)5260 (月~金、10~18時)

子どもたちの未来をサポートしてみませんか?

今年も少数民族地域の女子高生約180名を支援することが決まりました。彼女たちを3年間、ご支援いただける里親サポーターを募集しています。皆様のご支援をお待ちしております。

詳細は: 協会公式HP http://www.jyfa.org → 「教育支援」 → 「25の小さな夢基金」

※「25の小さな夢基金」への支援は税額控除の対象になります。詳細は協会公式HPの「25の小さな夢基金」のページをご覧ください。



ひろげよう支援の輪 新規会員募集中

1か月500円からできる教育支援 雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!

2000年の設立以来、雲南省の少数民族貧困児童の教育支援活動を行っています。協会の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

Table with 2 columns: Membership Type and Amount. 正会員 一口 6,000円 (500円/月), 賛助会員 一口 12,000円 (1,000円/月), 法人会員 一口 18,000円 (1,500円/月)

※法人会員は3口以上でお願いします ※正会員と法人会員には総会における議決権があります。賛助会員は事業・活動に賛同し、賛助していただくため議決権はありませんが、賛助会費は寄付金控除の対象となります。 ※4月1日から3月31日までを1年度とします。 ※年度途中でご入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。 会員には会員証を発行し、会報誌「彩雲の南」を年4回(2月、5月、8月、11月)、お送りいたします。

新規会員ご紹介 (2019年11月~2020年8月ご入会順、敬称略)

- 【正会員】蘇輝、張成、林媛、李燃、談建龍、陸章銘、関口満、佐々木陽子
【賛助会員】岩本大生
【法人会員】株式会社スマイル、株式会社良品計画、新日桜株式会社、テクノス興産株式会社 東磐商事株式会社
【「25の小さな夢基金」里親サポーター】金井政明、原新明、高橋秀行、許緯、陳本栄、陳桐子、陳幸恵、陳英世、陳泰世、陳美恵、野口正男、鄭磊、王雪薇、盧成輝、張嵘、李莉群、大垣晃一、汪蓉、清水嘉子、藤本典子、佐藤正視、金城幸、清野奈実、清野美紀、李艶春、藍汐妍、丁安平、名取発、長隆、初鹿野祐介、施洪清、林偉、佐々木理沙

お申し込み 協会公式HP (http://www.jyfa.org) → 支援に参加する → 会員になる

協会では随時、皆様からのご寄付を受け付けております。ご寄付は雲南少数民族の教育支援活動、協会運営のために大切に使用させていただきます。



お知らせ

皆さまからの感想・お便りお待ちしております



こんなコーナーがあったらいいな
雲南旅行でいい写真が撮れたので会報誌に載せてほしい
雲南のこんな情報が知りたい
など雲南省や協会の活動についてご意見やリクエストを募集しています。投稿につきましては会報やホームページにて掲載されることがあります。その際にご連絡を差し上げますので必ず連絡先のご記入をお願いします。

yunnan@jyfa.org

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階

認定NPO 法人日本雲南聯誼協会 東京本部事務局

アジア未来への人材育成プロジェクト インターンシッププログラムin東京本部&雲南支部

学生が長期休暇などを利用し、職場を体験するインターンシップ。協会でも「アジア未来への人材育成プロジェクト」の一環として2014年から東京本部と雲南支部でインターン生を受け入れており、これまでの受け入れは100名近くに上ります。東京本部で今年2月末から半年間インターンシップに参加した上原尚斗さん、8月から参加した雲南留学生の陳欣悦さん、雲南支部で6月末よりインターンシップ中の胡安静さんの感想を紹介します。

上原尚斗さん

2月末からインターンシップに参加して、あっという間に半年が過ぎました。新型コロナウイルスの影響で4月は在宅勤務が続いたものの、色々な業務の中で学んだことはたくさんありました。広報では例えば動画編集の基本や文章構成を学び、HPのリニューアル作業なども手伝っていただきました。特に印象に残っているのはWEB講演会の企画運営です。インターンシップでここまでプロジェクトを担当できる機会はなかなかないと思います。

今回、9月の就職直前に、協会でのインターンシップができたことを誇りに思います。インターンシップを通して得た経験を忘れずに、次の場でも活かしたいと思います。最後にはなりますが、初鹿野理事長、職員の皆様、そして特にご指導をいただいた林理事に感謝致します。ありがとうございます。



陳欣悦さん

今回のインターンシップで非常に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。感謝の気持ちを伝えたいと思います。インターンシップでは、2年前の協会ボランティア活動とは異なり、手紙やインタビュー動画を翻訳したり、広報ではチラシ作成や動画編集をしたりしました。協会では、日中両国の社会に触れることができるので、インターンシップを通じて、視野を広げることができました。またコミュニケーション能力を身につけることを初志の一つにして今回のインターンシップに参加した私は、様々な作業を行う過程で、スタッフの方々と相談したり、確認したりして、コミュニケーション能力を高めることができました。これからの就活で、今回身につけた積極性や行動力を生かせればと思います。

最後に設立20周年を迎えた協会に、もう一度感謝を申し上げます。



胡安静さん

大学で専攻した日本語を生かしたいと思い、大学の先生で紹介でインターンシップに参加してもう2か月になりました。短い時間ですが、色々勉強になりました。業務が多く、最初は慣れず時間がかかり、猫の手も借りたいほど忙しかったですが、皆さんはやさしく教えてくださり、毎日仕事を終えたら、達成感でいっぱいです。

「25の小さな夢基金」の翻訳作業では生徒からの感謝の手紙を読んでいるとお互いにつながっている関係を感じさせられ、今までに経験したことのない愛と温かさを実感させてくれます。

最後に皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。感謝の気持ちは言葉では十分に言い尽くせませんが、大学の先生、初鹿野理事長とスタッフの皆さんに感謝致します。ありがとうございます。



協会ボランティア通信 連載 第17回 大垣晃一さん 大宮支部特集

大垣さんとの出会いは約9年前、大宮支部が浦和で開いた写真展。大垣さんは高校の元物理教師で、植物の研究に力を入れていて、その時、雲南省の青い蘭や植物を現地で見たとおっしゃいました。それ以来、いつも大宮支部の写真展やイベント、大宮支部春節パーティーに足を運んでいただき、昨年9月には本部出展の「グローバルフェスタ JAPAN2019」にも暑い中、来ていただきました。

大垣さんは「何かの役に立ててほしい」とご自宅にあったチェンソーを本部に寄付して下さったり、「夢基金のサポーターになりたい」とご連絡をいただいたりとおっしゃっています。

現在90歳を越える大垣さんは2年前まで山に登り、日本の山の半分以上に登ったことがあるそうです。まだまだ元気な大垣さんの姿を見ると、こちらが励まされます。これからもよろしくお願いします。 大宮支部長 寺内明子

「視野を広げて」と教わる

私は10年ほど前に日本雲南聯誼協会を訪れ、「愛と友情のトンパ文字」に出会って、生きている象形文字に感激しました。以来、トンパ文字を今に伝える民族のことが頭の中を駆け巡っています。

ある年、さいたま市の文化センターで絵手紙の展示活動をしている方にトンパ文字を紹介したところ、「展示テーマに格好です」とおっしゃってくれました。その後、背丈の倍ほどの用紙にグループで絵解き風にトンパ文字を仕上げ、日本人にも分かるように発表しました。

象形文字であるトンパ文字に注目した協会と会員の方に敬意を表したいと思います。また、協会の行っている小学校建設と教育支援は、日本国内にもきっと良い影響を与えてい



大垣晃一さん(中央)グローバルフェスタJAPAN2019にて

ることでしょう。

私は大宮支部の活動をきっかけに、市ヶ谷にある東京本部を訪れました。2019年9月にはお台場で開かれているグローバルフェスタで、協会ブースを訪問しました。訪問のたびにスタッフの開放的な雰囲気に感銘し、その都度親近感を深めながら、改めて「視野を広げる」大切さを教わっています。日本雲南聯誼協会は私の国際感覚を高めてくれた「もう一つの学校」です。 大垣晃一

家族で支援 「25の小さな夢基金」新サポーターのご紹介

初鹿野理事長のお知り合いで協会会員の葛海瑛さん、昨年はチャリティゴルフコンペにも参加いただくなど積極的に活動されています。今回、ご家族で「25の小さな夢基金」をご支援いただくことになり、2人の息子さんから支援のきっかけや春養生に対する思いをつづったお手紙が届きましたのでご紹介いたします。

▼名取さんご一家



僕たちは日本の高校生です。両親の仕事の関係で2歳から12歳の10年間、上海で過ごしたこともあり、中国は僕たちにとって2番目の

故郷です。幸い何不自由なく生活することができていますが、僕たちは世界にまだ多くの貧困地域があることを知っています。中国から日本へ帰国後、日本雲南聯誼協会に連絡を取り、中国雲南省の貧困地域に住む子どもたちが教育の機会に恵まれない状況を知り、ボランティア活動に参加することにしました。

今回僕たちの家族は、協会の「25の小さな夢基金」に参加し、雲南省に住む一人の女の子を援助しています。彼女と中国語でコミュニケーションを取り、経済面の支援だけで

なく、彼女の勉強やる気が出るような精神的なサポートができれば良いなと思っています。僕たちは大人ではないので、人のためにできることはまだ少ないですが、社会をより良くするために一人ひとりの努力が必要だと感じています。今後も、日中友好のかけ橋を築き、国境を越え困っている人のためにもっと努力し、学んだ知識を生かして世界の人々の幸せに貢献していきたいと考えています。

名取 黎、名取 皓

イベント イベント中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大を防止するため、協会主催イベントの中止または延期を決定しました。

- 東京本部**
 - グローバルフェスタJapan (開催中止)
 - 10月31日 雲南省少数民族教育支援チャリティーゴルフコンペ (中止)
 - 12月19日 協会設立20周年記念式典及びチャリティー忘年会 (延期)

- 大宮支部**
 - 国際ふれあいフェア 2020(開催中止)
 - あげおワールドフェア 2020(開催延期)



各イベントを楽しみにされていた会員・ご協力者・関係者の皆様には大変、申し訳ございませんが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

お知らせ 日本雲南聯誼協会主催 雲南省少数民族教育支援チャリティーゴルフコンペ中止

協会主催のチャリティーゴルフコンペは新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、参加者及びスタッフの健康と安全のため、やむなく中止とさせていただきますこととなりました。コンペを楽しみにしていらっしゃる皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。当コンペは昨年までで15回開催され、皆様から頂戴いたしましたご寄付は「25の小さな夢基金」で春養生のご支援に使わせていただいております。今年も春養生が皆様のご支援を待っておりますので、温かいご寄付をいただければ幸いです。

ご寄付に関して

チャリティーゴルフコンペのご寄付も寄付金控除の対象となります。

- ① 銀行振込
 - 三菱UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380
 - 特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会 (トクイチイリカクド ウカクジ ノコソク ノクナルギ キョウカイ)
- ② 郵便振替
 - 振替口座 00100-8-610935
 - 加入者名 特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
 - ※ 振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします
 - ※ お振込み後に協会事務局へご一報いただけますようお願い申し上げます

編集後記

先日、2日連続で38.6度の発熱があり、慌てて近所のクリニックに駆け込みました。血液検査で異常はなく、念のために受けたPCR検査も陰性で、原因は分からずじまいでした。中国・武漢から広がった新型コロナウイルスは、昨年夏から秋にかけて流行が始まったと言われており、発生からすでに一年以上経過したことになります。まだワクチンや有効な薬はなく、「ウイズコロナ」の状態は続きます。皆さんも油断されないようご注意ください。(編集長・木本一彰)

理解は絆を強くする 挑戦! 中国百科検定④

日本中国友好協会は中国建国の翌年、1950年10月1日に創立し、今年で創立70周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の拡大で、複数の記念イベントに影響もありましたが、協会は感染症対策ガイドラインを作成し安全措置を講じたうえで、第9回中国百科検定を2021年3月20日(土・祝)に実施します。中国の知識は今やビジネスをはじめ、就職活動の重要なアピールになります。第9回の受験申込期間は12月1日～2021年2月20日まで。みなさま是非受験してみてください。今号は『問題集』から2級問題2題の出題です。

- Q1 雲南省にある世界遺産はつぎのうちどれでしょう?
①蘇州の古典庭園 ②平遥古城 ③麗江古城 ④廬山国家公園
 - Q2 中国がWTO(世界貿易機関)に加入したのは何年?
①1978年 ②1992年 ③2001年 ④2010年
- 中国政府の協力のもと、第9回中国百科検定を受験された大学生のうち、成績優秀者を中国にご招待します(訪中時期は新型コロナウイルス感染症収束後に中国の受け入れ機関と調整します)。
お問い合わせは日本中国友好協会 (〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-2-3 鈴和ビル5F TEL.03-5839-2140 FAX.03-5839-2141 e-mail: nicchu@jcf-net.gr.jp) まで。
- 解答 Q1=③麗江古城、Q2=③2001年